

福岡県米麦大豆生育情報

平成29年8月31日
福岡県農林業総合試験場

水稻の生育概況と成熟期予測

1. 気象経過 [太宰府アメダス]

	7月25日～8月29日 (35日間)				
	平均気温	最高気温	最低気温	日照時間	降水量
	℃	℃	℃	hr	mm
本年	28.9	34.0	25.2	253	186
前年差(比)	+1.5	+1.3	+1.4	106%	62%
平年差(比)	+1.7	+1.9	+1.4	125%	82%

注) 平年は1981～2010年の太宰府アメダスの平均値。

2. 農林業総合試験場における生育概況

7月25日～8月29日の平均気温は平年より1.7℃高く、日照時間は25%多く、降水量は18%少なく、高温・多照で経過した。出穂期はいずれの品種も平年より1～5日早く、穂数は夢つくしで平年より3%多く、元気つくしで平年並～16%多く、ヒノヒカリは平年並～6%多い。今後の気温が平年並で経過すると、成熟期は平年より2～5日早いと予想される。

3. 農林業総合試験場における水稻の出穂期、穂数と予想成熟期

調査場所	移植期	品種	年次	穂肥施用時		主稈葉数	全穂数 本/m ²	出穂期 (月日)	予想成熟期 (月日)
				カラー スケール	葉緑 素計				
農産部	6/9	夢つくし	本年	4.1	41.2	13.2	389	8.05	9.08
			前年比(差)	±0	-0.1	+0.2	97	-3	-1
			平年比(差)	+0.1	+0.9	+0.4	103	-5	-5
	6/21	元気つくし	本年	4.1	38.0	13.5	351	8.17	9.25
			前年比(差)	+0.5	+0.1	-0.2	101	-1	±0
			前9年比	+0.3	-0.1	+0.4	100	-3	-3
6/21	ヒノヒカリ	本年	3.8	37.4	13.9	400	8.24	10.04	
		前年比(差)	+0.4	+5.1	±0	100	-1	-1	
		平年比(差)	+0.1	+1.1	+0.4	106	-3	-4	
筑後分場	6/20	元気つくし	本年	3.5	35.8	13.7	471	8.17	9.25
			前年比(差)	-0.3	-2.9	-0.1	115	±0	-1
			前9年比	±0	-0.1	+0.5	116	-1	-2
	6/20	ヒノヒカリ	本年	3.1	31.2	14.0	396	8.24	10.04
			前年比(差)	-0.7	-7.0	±0	95	±0	-2
			平年比(差)	-0.2	-2.8	+0.4	100	-2	-2

注) ①平年値は平成19年～28年の10か年平均値。

②カラースケールは群落葉色値、SPAD値は葉緑素計 (SPAD-502) による上位展開第2葉の測定値。

③熟期は8月30日以降の気温が平年並 (過去10年アメダス平均) で経過した場合の予測値。

④この値は暫定値で、今後変更することがある。

4. 今後の対策（水稻）

（1）病虫害防除

病虫害は発生状況に応じて適切に防除を行う。特にいもち病、トビイロウンカ、斑点米カメムシ類は、ほ場での発生状況の把握に努め、適切な防除が行われるよう指導を行う。

（2）水管理

出穂期～開花期は最も水を必要とする時期なので、不足しないようにする。その後は、間断かん水を行い、徐々にかん水間隔を伸ばす。台風襲来等で強風が予想される場合は、深水とし、脱水による青枯れや白未熟粒の発生を防止する。早期の落水は、登熟障害による収量・品質・食味の低下が懸念されるため、収穫前7～10日頃を落水時期の目安とする。

（3）適期収穫

収穫時期は出穂後の積算気温を参考に、黄褐色粳比率や粳水分を確認して決定する。

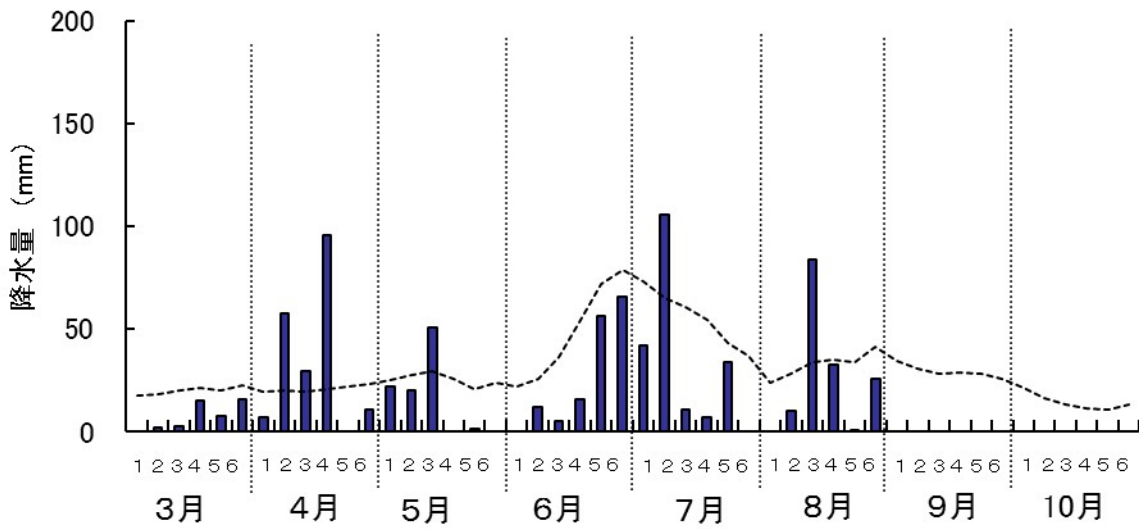
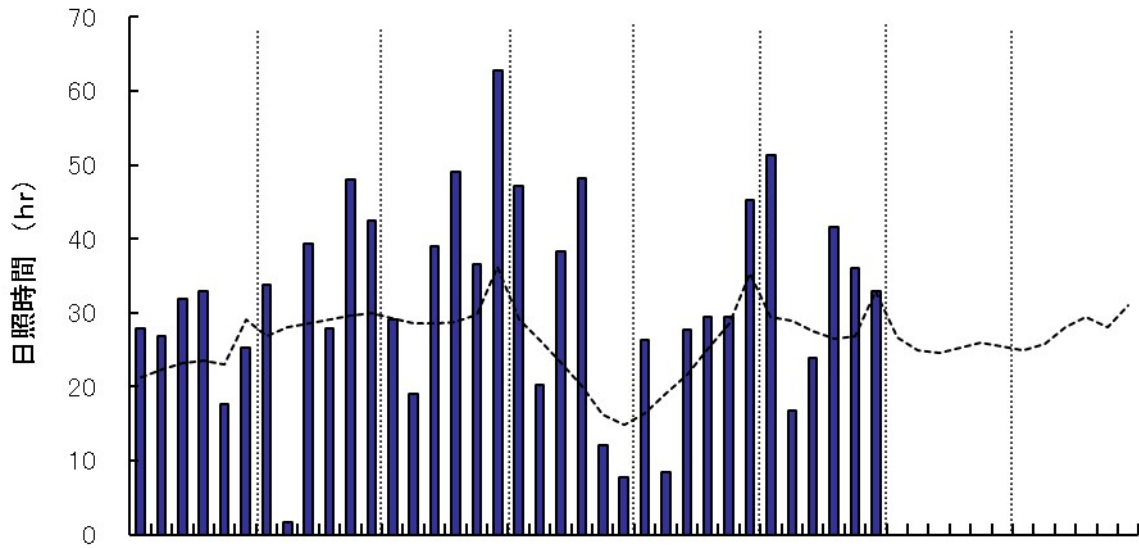
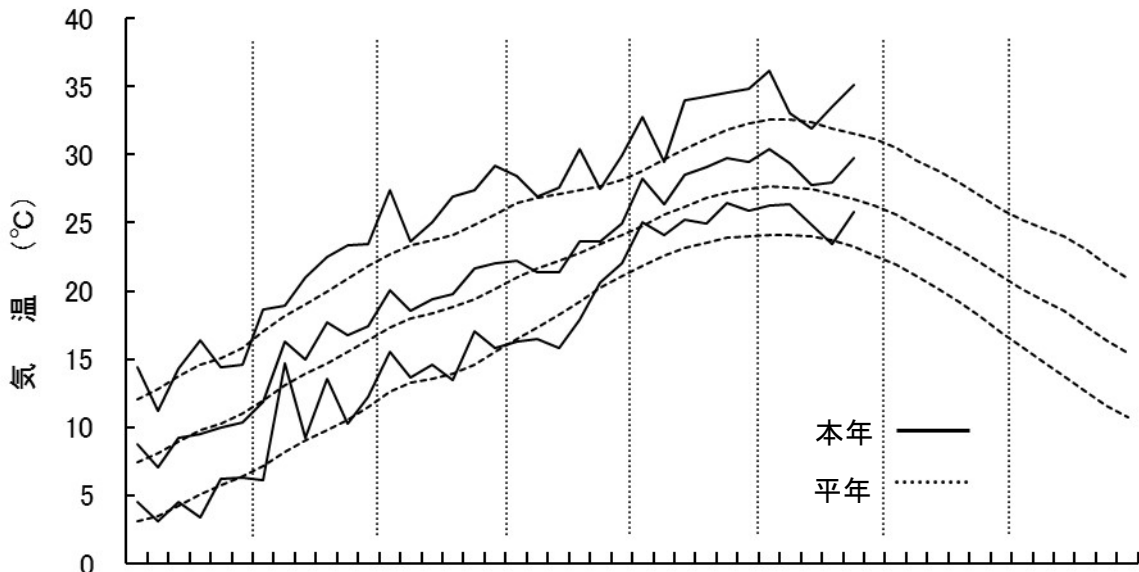
5. 農林業総合試験場農産部における大豆（フクユタカ）の開花期

7月10日播種の大豆の開花期は8月19日で平年並である。

播種期	開花期	前年差	平年比
7月10日	8月19日	-2日	±0日
7月24日	8月28日	-1日	-3日

6. 今後の対策（大豆）

ハスモンヨトウの防除は、各地に設置されているフェロモントラップの誘殺数を参考に、適期防除を実施する。カメムシ類は開花後30日頃に防除を実施する。



2017年(平成29年) 夏作期間の気象 (太宰府アメダス)